



Title	2024 年度（通年） 日本語4（講読）実践報告
Author(s)	宮崎, 玲子
Citation	日本語講座年報. 2025, 2023-2024, p. 45-48
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102678
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2024 年度（通年） 日本語 4（講読）実践報告

宮崎 玲子

1. はじめに

本稿では、2024 年度の「日本語 4（講読）」について報告する。授業の目標は、1 年次の外国語学部専攻語到達目標ⁱを参考に、以下の 3 つを設定した。

1. 主張と論法が明確な文章を論理に従って読み、著者の主張を説明することができる。
2. 読解した内容について、自分の知識や体験と照らし合わせて他の受講生と議論することができる。
3. 読解した内容をもとに、更なる具体例を考えたり著者の主張を発展させながら、自分の意見を記述することができる。

異なる文化背景を持つ学生が混在する教室で読解の授業を進めて行くにあたって、他者の視点や意見を取り入れることは、非常に有効である。そのため、本授業ではペアやグループでのワークに重点を置き、他の学生との対話を通して自分の読みや考えを深めること、またテキストを読んで新しい知識を得るだけでなく、そこから新たな視点に気がついたり応用したりすることを目指した。

2. 授業概要

2.1 使用教材

使用教材には、学生の専攻に鑑みて日本語・日本文化・日本事情に関連するもので、かつどの学生にも比較的身近なことばや社会を取り扱ったもの、自分自身の母語や母文化と比較したり、他の学生との対話が深められるものを筆者が選定した。メイン教材として以下の 3 点を採用し、適宜抜粋して使用した。本稿では、以下それぞれ教材①、教材②のように示す。

- ①古田徹也（2021）『いつもの言葉を哲学する』朝日新聞出版
 - ②三木那由他（2022）『会話を哲学する』光文社
 - ③中村桃子（2024）『ことばが変われば社会が変わる』筑摩書房
- また、小説を読みたいという学生も一定数いたため、前期には以下の小説を用い、ジグソー・リーディングⁱⁱの手法を取り入れながら、読解を行った。
- ④梶尾真治（2008）「きみがいた時間、ぼくの行く

時間」『クロノス・ジョウンターの伝説∞インフィニティ』朝日新聞社

その他、時事問題を扱いたい学生も多く、速読の練習として、以下の教材や新聞の社説を取り扱った。

⑤朝日新聞出版（2024）『朝日キーワード 2025』朝日新聞出版

2.2 授業概要

授業の概要は以下の通りである。前期と後期では内容が異なるため、分けて報告する。

2.2.1 前期

授業の概要と取り扱った教材・トピックを表 1 に示す。

表 1 授業概要（前期）

回	授業内容とトピック
1	オリエンテーション
2	教材①-1 第 1 章第 1 節 グループワーク ・理不尽なルールについて 教材⑤「止まらない物価上昇」
3	教材①-1 第 1 章第 1 節 発展ワーク ・要約のポイント 教材⑤「ひきこもり、全国に 146 万人」
4	教材①-2 第 1 章第 5 節 グループワーク ・オノマトペのイメージについて 教材⑤「準備難航する大阪・関西万博」「子ども家庭庁」スタート
5	教材①-2 第 1 章第 5 節 発展ワーク ・オノマトペを楽しもう 教材⑤「広がる対話型 AI の活用」「海外でヒット相次ぐ日本アニメ」
6	教材①-3 第 2 章第 1 節 グループワーク ・レポートや論文の執筆について 教材⑤「深刻化する教員不足」「増える公立大」
7	教材①-3 第 2 章第 1 節 発展ワーク ・課題やレポートの提出の仕方について 教材⑤「広がる書店空白地帯」「ステマ規制スタート」
8	教材④-1 ジグソー・リーディング

9	教材④-2 ジグソー・リーディング
10	教材④-3 ジグソー・リーディング
11	教材①-4 第4章第6節 グループワーク ・新聞の見出しについて 教材⑤「最低賃金、1千円超え」 「リスクリキング促進と労働市場改革」
12	教材①-4 第4章第6節 発展ワーク ・新聞の見出しをつけてみよう 教材⑤「復活するインバウンド需要」 「物流2024年問題」
13	教材①-5 第3章第3節 グループワーク ・ことばの使われ方を調査してみよう 教材⑤「技能実習制度廃止へ」 「深刻な人手不足」
14	教材①-5 第3章第3節 発展ワーク ・コーパスを使ってみよう 教材⑤「地球沸騰の時代」「GX推進法」
15	総括・授業評価アンケート

各回の授業は、以下のように進行した。なお、第8回～第10回の授業は変則的な回だったため、ここでは触れない。

一. 最近読んだもの、報告

二. サバイバル読み

【一週目】

三-1. 予習シートのグループ確認

四-1. 全体共有

五-1. 応用ワーク

※課題として、読解部分の要約とコメント提出

【二週目】

三-2. 要約課題のまとめや発展ワーク

四-2. 全体共有

五-2. 次回の読解内容に関するプレ・ワーク

六. 速読

一. に関しては、学生の授業以外の読解を促すために、ウォーミングアップを兼ねて行った。読むものは言語もジャンルも問わないこととし、口頭で報告してもらった。毎回数名、基本的に挙手制とした。日本の近代の名著を読んだことを報告する学生もいれば、現代のミステリー作品、哲学書など学生によって報告するジャンルは様々で、学生の趣味嗜好を

窺い知る機会にもなった。

二. に関しては、まず、学生全員を起立させ、その日のメイン教材（教材①）の読解部分を、一人一行ずつ順番に音読するものである。ただし、読んでいる人が間違えてしまったら座るというルールで行った。大学生になると、授業で音読する機会は少なくなることが予想されるが、良い文章を声に出して読むことは、本文の理解や文章力の向上のためにも効果があるとされる。また、語句の読みの予習を促すことにもつながるため、この活動を取り入れた。

三～五. は、メイン教材である教材①の読解活動である。予習として、前の回に配布した読解資料を筆者が自作した予習シート（当該範囲の要約補助となる設問への回答）に沿って読んできていることを前提として行った。毎回くじ引きでグループを決め、そのグループでの活動となる。一週目には、予習シートへの回答をグループで確認し、それを全体で共有した。その後、読解内容をより確実にするため、応用ワークとして、自分自身で例を考えて共有したり、読解内容に関して議論したりするグループ活動を行った。また、読解範囲の要約とコメントの記述を課題とした。二週目には、各自が提出した要約課題に関してフィードバックを行った後、発展ワークとして、読解内容に関連する内容に関してのグループワークを行った。最後に、次回の読解範囲に関して、補足説明が必要だと思われる箇所を取り上げ、プレ・ワークとして説明したり、考えたりする時間を設けた（五-2.）。学生たちの日本語能力は総じて高いが、日本で生まれ育った日本語母語話者であれば自然に身についているであろう語彙や、日本に長く生活しているれば耳にしているであろう日本事情などが不足している場合がある。そのような知識の提供の場としたり、トピックに関連したことを取り上げ、当該トピックへの興味を持たせることを目的とした。

六. に関しては、時間の関係で実施できない日もあったが、教材⑤のうち、事前に聞いた学生の興味のあるトピックや比較的どの学生にも身近な内容のトピックを筆者が取り上げた。最初の二回は全員同じトピックのものを時間を決めて読み（筆者自作の要約補助シート使用）、その後、ペアになって読んだ内容を相手に要約して話すという活動を行った。三回目以降は、2種類のトピックを準備し、ペアで異なるものを読み、その後、読んだ内容を相手に要約し

て説明するという活動に変えた。こうすることで、「要約して分かりやすく話す」という活動の真正性がより高くなり、また触れるトピックの数も多くなることを狙った。

2.2.2 後期

授業の概要と取り扱った教材・トピックを表2に示す。

表2 授業概要（後期）

回	授業内容とトピック
16	オリエンテーション ・参考文献の検索の仕方など
17	教材③-1 第1章-1 グループワーク 教材⑤「闇バイト、広域連続強盗」「自転車交通違反厳罰化と電動キックボード」
18	教材③-2 第1章-2 グループワーク 教材⑤「政府のデジタル化推進」「マイナンバー制度の拡充と混乱」
19	教材③-3 第1章-3 グループワーク 教材⑤「LGBT理解推進法」「異次元の少子化対策」
20	教材③-4 第1章-4 グループワーク 社説比較「LGBT理解推進法」
21	教材③-5 第6章 グループワーク 社説比較「出生率低下」
22	社説比較 ・グループで興味のあるテーマの社説を選んで比較しよう
23	教材④-1 はじめに グループワーク 教材⑤「見通し立たないリニア開業時期」「スペースジェット開発撤退」
24	教材④-2 第5章-1 グループワーク 社説比較「リニア工事」
25	教材④-3 第5章-2 グループワーク
26	教材④-4 第1章-1 グループワーク
27	教材④-5 第1章-2 グループワーク
28	教材④-6 第3章-1 グループワーク
29	教材④-7 第3章-2 グループワーク
30	総括・授業評価アンケート

前期の最終週に行ったアンケートや毎回の授業のコメントシートを受けて、また後期はさらに多くの読解教材を取り上げたいと思い、後期では、以下の

ように授業内容、進行を変更した。下線部が主な変更点である。なお、第22回の授業は変則的な回だったため、ここでは触れない。

- 一. 最近読んだり聞いたり知ったこと、報告
- 二. サバイバル読み
- 三. メイン教材の読みに関するグループワーク
- 四. 全体共有
- 五. 次回の読解内容に関するプレ・ワーク
- 六. 速読（教材⑤または新聞の社説比較）

ここでは、主に下線部について報告する。

一. 関しては、「読んだもの」に限定すると、その週になかなか興味深いものに出会えず報告できないとの意見があったため、テレビやネットニュースなどで見たものや聞いたものなど幅を広げることとした。他の授業の課題で読んだ本について報告する学生もいれば、日本や自国、世界の時事ニュースを取り上げる学生もいた。

三. 関しては、前期は二週で1つの文章を取り上げていたが、後期は毎週1つの文章を取り上げることにした。前期と同様、筆者が自作した予習シートに沿って読解資料を読んでいることを前提としたが、予習シートには、読解内容の確認だけではなく、自分自身で考える項目も取り入れた。また、授業内のグループワークでは、予習シートの確認をすると同時に、読解内容について理解を深めたり例を挙げたり、また、議論する問い合わせを設けるようにした。

六. 関しては、前期と同様、教材⑤を取り上げながら、その内容に関する2社の社説を取り上げ、ペアで比較する活動も行った。

3. 学生の反応と今後の課題

ここからは、主に後期の授業評価アンケートの結果に基づいて学生からの反応と今後の課題について述べる。

「最近読んだり聞いたり知ったこと、報告」については、「みんなが最近知ったことや読んだことをシェアすることで、自分もいろいろなことを学ぶことができた」「報告するために何かしら読まないといけないので、本を読むようになって良い」「会話力の上昇に役立つ」など読書の習慣づけやインプットだけでなくアウトプット力の向上、そして、クラスメイトのことを知ること、クラスメイトの報告からの学

びも多かったことが窺えた。また、前期の「読んだこと」報告から幅を広げたことも、後期は特に課題に追わっていた学生にとって活動に参加しやすくなつた旨の意見も複数あつた。読書の習慣づけや興味の幅を広げるためだけでなく、お互いのことを知るためにも、このような活動は今後も続けていきたい。

「サバイバル読み」に関しては、「文章を分析する前に、立って読むことによって、内容への理解が深まる」「話す練習になった」「読むことで自分のものにすることがある」など、活動の意義を理解して参加していることが窺えた。一方で、「自分一人だけが座るようになつたら、ちょっと恥ずかしくて悔しい気持ちになる」という間違えたときのフォローの大切さを再認識するコメントもあつた。「間違えると恥ずかしい、悔しい」という経験は事前学習を促す効果もあれば、授業への積極的な参加を妨げる原因にもなつてしまふ。この活動は、元は筆者の娘の小学校の国語授業で人気のあった活動を模範にしたものである。小学生は、他の児童の音読をよく聞き、誰かがつまつたり間違えたりしたときに活発に指摘し合つたり、また、自分が最後まで残れたことに誇りを感じたりとゲーム性を楽しんでいるとのことであつた。一方、この活動を成人の日本語非母語話者（主にアジア圏出身）の授業に取り入れたところ、他の学生の間違いを指摘するように指示しておいても、指摘する学生はおらず、むしろ読めない場合には助け合うという姿が見られた。実際、「クラスメイトの日本語を正すのは気まずいのであまり出来なかつた」というコメントもあり、指摘しやすい環境ではなかつたことが窺える。今後は、個々の学生の文化的背景や気質を考慮しつつ、クラスの雰囲気づくりにも留意しながら、最適な方法を模索する必要がある。

次に、メイン教材のグループワークについては、「他の授業では離れている席の学生と話せる機会が減多になく、この授業でのグループ・ペアワークはクラスのみんなについて分かり合える大切な時間だった」「毎週異なるクラスメイトと組むことで、面白いし、いろいろな意見を聞けるので、とても良い」

ⁱ <https://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/kyoumu/ns/st.html>

ⁱⁱ グループのメンバー全員が異なるテキストを読

など、全員から好意的な反応、コメントが寄せられた。ただし、「グループ分けするとき、予習しなかつた人、意見など何も言わない人と一緒になると、ちょっとやる気がなくなる」といった教室コントロールの不足に言及する意見もあつた。筆者自身、予習をしてこない数名の学生には手を焼いていた。今年度、予習は授業中の口頭とスライドでの指示のみで、提出の義務や成績に反映させることもしなかつた。しかし、グループワーク中に読み進める、クラスメイトの予習シートを覗く、授業中にネットや生成AIなどを活用して参加する学生も見受けられた。今後は、予習の効果や必要性をさらに周知し、何かしらの予習を促す仕掛けを取り入れるようにしたい。また、グループワークの介入の仕方についても、今後の課題としたい。

速読に関しては、「日本社会の多様な主題について触れることができるので勉強になった」「読解力の上昇に役立つ。社説比較は他人とのコミュニケーション能力だけでなく、ある物事を細部まで細かく観察する力の育成にも役立つと思う」など肯定的に受け止める意見が多かつたが、もともと時事問題にあまり興味のない学生にとっては難しい内容だったようだ。また、特に、非漢字圏の学生にとっては制限時間内に読むことが難しいようで、十分に時間を取つた上で速い学生には追加の課題を与えるなどの工夫が必要であると感じられた。

筆者は、今年度初めて本授業を担当することとなつた。コースの開始時点で授業全体を俯瞰して準備するには至らず、学生たちを戸惑わせることも多かつたが、終始活発に授業に参加してくれた学生たちには深く感謝したい。ここには報告しきれない反省点も多々あるが、今後の改善点として、次年度の指導に生かしていきたい。

【参考文献】

- 館岡洋子（2005）『ひとりで読むことからピア・リーディングへ』東海大学出版
班目貴陽（2023）「2022年度通年日本語4（講読）実践報告」『日本語講座年報2021-2022』pp. 47-49

み、お互いの読んだ内容を話し合いの過程でつなぎ合わせて1つのストーリーを作り出していく読解活動のこと。